

情報工学で博士の学位取得 をめざす社会人の皆様へ

東京農工大学 大学院
工学府 電子情報工学専攻
知能・情報工学専修

企業に勤めながら大学院の博士後期課程に入学し、社会人ドクターとして学位取得を考えている方に、電子情報工学専攻・知能情報工学専修の博士後期課程入学のための準備や手続き、指導教員(研究室)を選ぶときのアドバイス、入学後のカリキュラムの内容、短縮修了で学位を取得するための条件、問い合わせの方法などについて紹介します。

博士後期課程(社会人ドクター)入学のご案内

受験資格

(1) 修士の学位を所持している場合

4月入学は、8月、1月、3月の3回、10月入学については8月に実施される博士後期課程入学試験を受験することができます。修士の学位であれば、学位の種類は不問です。例えば理学、医学、農学の修士号でも受験可能です。

(2) 最終学歴が大学(学士)や高専、高校の場合

(入学年の4月1日に)24歳以上の方は出願資格の認定審査を行い、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められれば、受験資格を得ることができます。出願資格の認定審査は、博士後期課程入試の1~2ヶ月前に実施され、それまでの研究業績等をもとに博士課程における研究遂行能力について審査が行われます。

入学試験の日程例(詳細は年度ごとの募集要項でご確認ください)

	H31年4月入学			H30年10月入学
	第1期	第2期	第3期	
募集要項配布	H30/5/1~	H30/5/1~	H30/5/1~	H30/5/1~
資格審査申請書受付	H30/6/18~22	H30/11/26~11/28	H30/2/7~8	H30/6/18~22
出願資格認定審査	H30/7/3	H30/12/3	H30/2/15	H30/7/3
出願(願書受付)期間	H30/7/17~20	H30/12/10~14	H30/2/26~28	H30/7/17~20
入学試験	H30/8/20	H30/12/18	H30/3/6	H30/8/20
合格発表	H30/9/7	H30/1/15	H30/3/20	H30/9/7

入学試験の形態

書類審査及び面接によって行われます。面接試験の具体的内容については、指導を希望する教員に直接お問い合わせ下さい。

博士号取得のメリット

研究あるいは開発業務に携わる若い人の場合、大学での教員の指導を受けながら研究を進め、論文をまとめていく過程で、深い専門知識を身につけ、理論的な考察を行なう恰好の機会を得ることができます。学位取得後は、会社内では専門家としての役割がより重視されることでしょう。他の部署や社外との関係においては、技術面で責任ある役割を担うとともに、専門家に対しても自信を持って交渉や議論を行なうことができるようになります。また海外との技術的交渉において学位を持っていることが有利に働くでしょう。

会社内で研究経験を積んだ人の場合、それまでに自分が行ってきた研究をまとめる機会をえることができます。また、最新の研究動向に触れながら、専門的な知識を整理し直したり、教員の指導を受けながら、自分の研究に理論的な補強をしたりすることも可能です。学位を修得した後は、専門家としての評価がより高まることでしょう。また、大学等への転出を考えたときに、多くの場合、博士号を持っていることが求められます。



募集要項の入手方法

大学院入試係(小金井キャンパス中央棟1F)で配布しています。また、大学のホームページ(http://www.tuat.ac.jp/admission/nyushi_daigakuin/youkou/index.html)からPDFファイルをダウンロードすることもできます。郵送を希望する場合は、入学試験係(042-388-7014)にお問い合わせください。

入学に必要な経費

入学料:282,000円、授業料:535,800円(年額)

(平成30年度入学生)

指導教員の選び方、入学までの準備

まずはホームページなどで情報収集をされるとよいでしょう(本冊子の最後のページに教員一覧があります)。研究内容、学術論文の発表リストなどから、自分の研究内容に合った教員を見つけてはいかがでしょうか。知能・情報工学専修では、博士後期課程の学生を積極的に受け入れています。博士課程(博士後期課程)の場合、研究室ごとに定員による制限はありませんので、教員に余力がある限り、社会人ドクターの学生を受け入れることができます。

候補となる教員を見つけたら、電子メールや電話で、あるいは直接訪問して相談すると良いでしょう。また、受験を決める前に、所属する会社でも了解を得ておくことが重要です。その過程で、入学後の研究内容についても検討を進めることになります。

募集要項は、出願期間のおよそ2か月前から配布されています。博士課程の入学の検討を始めたなら、ホームページなどで入試要項をまず手に入れてみましょう。出身大学から取り寄せる証明書等も必要になりますので、出願書類については早めに確認しておきましょう。

大学院講義 ー受講は必須ではありませんー

博士論文のための研究(「電子情報工学特別セミナー」と「特別計画研究」)により、学位取得のために必要な単位が充足されます(「特別計画研究」は、社会人に配慮された内容となっており、限られた時間でも無理なく単位を取得することができます)。したがって、講義への出席は必須ではありません。もちろん希望すれば自由に講義を聴講することができます。時間が許せば最先端の講義を受講して知識を広げるのも良いでしょう(もちろん、単位を取得することも可能です)。

学位審査 ー査読付き論文・国際会議発表ー

指導教員の指導の下に博士論文を執筆し、その論文の内容について学位審査が行われます。まず、予備審査では、指導教員を含む5名の審査員(教員)の前でプレゼンテーションを行い、本審査に進んで良いかが判断されるとともに、博士論文やプレゼンテーションをブラッシュアップするためのアドバイスを受けることとなります。本審査は公開されて行われます。学位審査のタイミングは、博士論文を構成する内容の査読付き論文(いわゆる定期刊行ジャーナル論文)、査読付き国際会議プロシーディングス)があることが目安となります(掲載済みもしくは掲載決定も可)。

社会人ドクターとして入学するにあたり、受験前に指導を希望する教員と十分な打合せをすること、所属する会社での了解を得ておくことが重要です。

入学後のカリキュラムは、社会人ドクターに十分配慮された内容となっています。



よくある質問とその答え(FAQ)

大学院博士後期課程への入学を検討される方から問い合わせの多い質問とその回答をまとめました



Q. 修士の学位を持っていないのですが、出願資格の認定審査では具体的にどのようなことが審査されるのでしょうか？

A. 学部在学時の専門(研究内容等)や企業での実績などを面接でヒアリングし、総合的に判断します。

Q. 会社で取り組んでいる研究をそのまま博士論文の研究課題にすることは可能でしょうか？

A. 会社と指導教員の了解が得られれば可能です。詳細は指導を希望する教員と個別にご相談下さい。

Q. 博士課程入学前に掲載された論文を学位論文の研究内容に加えることはできますか？

A. 可能です。ただし、学位論文と内容がかけ離れている場合には通常認められません。すでに関連する研究実績がある方は指導を希望する教員と個別にご相談下さい。

Q. 学際的な研究でも博士の取得は可能でしょうか？

A. 例えば、認知科学や心理物理学の研究に情報工学技術を活用し、博士(工学)の学位を取得した例があります。また、学際的な研究の場合は、博士(学術)の学位を目指すことも可能です。

Q. 講義への出席が必須でないことはわかりましたが、研究の指導を受けるために実際どの程度の頻度で大学に行く必要がありますか？

A. 研究の進め方は、研究内容や指導教員にもよりますので一概には言えません。ほぼ毎週大学に来て研究室のゼミ・輪講に参加する人もいれば、指導教員が打合せのために赴いたり、TV 会議システム・電子メールなどを活用することによって、コミュニケーションを取るケースもあります。

Q. 学位を2年あるいは1年で取得する短縮修了は可能でしょうか？

A. 可能です。博士後期課程の標準修業年限は3年ですが、研究の進捗状況によっては3年未満(最短では1年)で学位を取得することが可能です(ただし、文科省の規定により、博士前期課程(修士課程)と博士後期課程の在籍年数が3年以上あることが必要とされています)。当初は3年で修了する計画で入学した場合でも、研究が順調に進めば、途中からでも短縮修了に合わせて学位審査のスケジュールが組まれるなど、柔軟に対応しています。

Q. 会社が終わってから大学に行き、学位を取得することは可能ですか？

A. 可能ではありますが、会社での仕事を続けながら、それとは全く別に限られた時間で、学位取得のための研究を進めていくことはとても困難です。途中で挫折することを避けるために、所属する会社の理解が得られていることが重要です。

Q. 大学院入試のホームページの工学府博士後期課程には、「社会人特別選抜」が見当たりません。

A. 工学府の博士課程の入試は、社会人の方も受験しやすいような形で実施されているため、社会人に特化した選抜制度は用意されていません。社会人の方も「一般選抜」を受験して下さい。電子情報工学専攻・知能・情報工学専修では、社会人ドクターを積極的に受け入れています。

問い合わせ先

受験の手続き、募集要項の入手について

〒184-8588

東京都小金井市中町2-24-16

東京農工大学小金井地区事務部学生支援室

入学試験係

電話:042-388-7014(土日・祝日を除く9:00~17:00)

電子情報工学専攻(知能・情報工学専修) 教員一覧

教員氏名	ホームページ	研究分野、キーワード
宮代 隆平	web.tuat.ac.jp/~miya/	組合せ最適化、数理計画、離散最適化、アルゴリズム、数理工学、実社会に現れる最適化問題の数理モデリングおよび最適化。
並木 美太郎	www.namikilab.tuat.ac.jp	OS・言語処理系・ウィンドウシステムなどのシステムソフトウェア、組込みシステム、高性能計算機システム、分散処理、ネットワークアーキテクチャ、計算機システム省電力化、情報システム。
山田 浩史	web.tuat.ac.jp/~hiroshiy/	オペレーティングシステム、仮想化技術、並列分散処理システム、システムソフトウェアに軸足を置いたクラウドコンピューティングおよびディペンダブルコンピューティング。
杉浦 慎哉	web.tuat.ac.jp/~sugiura/	無線通信ネットワーク(無線分散ネットワーク、車車間通信システム、セルラーシステム等)におけるデジタル信号処理・符号化技術に関する研究。
金子 敬一	web.tuat.ac.jp/~k1kaneko/	プログラミング言語処理系の耐故障化や高速化、相互結合網の位相構造の設計や経路選択算法の開発、プログラムの部分計算および並列実行、マルチメディア教育などに関する研究。
藤波 香織	web.tuat.ac.jp/~fujinami/	センサや web 等から得られるデータによる実世界情報の認識・利用手法やその基盤システムに関する研究。情報の効果的・効率的な取得のためのヒューマン・コンピュータインタラクション手法に関する研究。
藤田 桂英	katfujilab.tuat.ac.jp	知的エージェント、マルチエージェントシステム、自然言語処理、データマイニング、複雑ネットワーク解析、ナレッジマネジメントを中心とした知能情報処理および人工知能に関する研究分野。
藤田 欣也	web.tuat.ac.jp/~kfujita/	作業者やオフィスの状況推定、テレワーク、アバターコミュニケーション、力覚の呈示や遠隔共同作業など、バーチャルリアリティやヒューマンインタフェースに関する研究。
清水 郁子	web.tuat.ac.jp/~ikuko/	コンピュータビジョン、ロボットビジョン、3次元画像処理、画像処理技術を応用した情報支援システムなどに関する研究。
山井 成良	http://www.net.cs.tuat.ac.jp/	インターネットアーキテクチャ、ネットワークセキュリティなど、インターネットを含む大規模(分散)システムの構成・管理・運用・評価に必要な技術の研究。
中條 拓伯	web.tuat.ac.jp/~nakajo/	計算機アーキテクチャ、並列処理、高性能プロセッサ、集積回路設計、システム設計、ハイパフォーマンスコンピューティング。
中川 正樹	web.tuat.ac.jp/~nakagawa/	ヒューマンインタフェース、文字・図形などのパタン認識、日本語処理、手書きインタフェース、教育工学。
堀田 政二	web.tuat.ac.jp/~s-hotta/	画像やビデオ等のマルチメディアコンテンツの検索や認識に関する研究。クラスタリングを利用した大量のデータの効率的なブラウジング手法に関する研究。
近藤 敏之	www.livingsys.lab.tuat.ac.jp	生物の環境認知・適応・運動学習メカニズムの構成論的解明とその工学的応用に関する研究。自律分散システム、ロボティクス、ブレイン・コンピュータ・インタフェース、リハビリ医学。
渡辺 峻	https://sites.google.com/site/shunwatanabeshomepage/	情報理論の観点による情報通信や情報セキュリティ技術に関する理論的な研究

協力研究室(生物システム応用科学府、BASE) 教員一覧

教員氏名	ホームページ	研究分野、キーワード
齋藤 隆文	www.tuat.ac.jp/~vcl/	コンピュータグラフィックス、情報可視化、映像処理、形状処理など。特に、効果的な視覚情報伝達や、画像生成処理の新しい応用を目指した研究。
田中 雄一	msp.lab.tuat.ac.jp	グラフ信号処理、画像処理、映像符号化、ウェーブレット・フィルタバンク等の多次元マルチメディア信号処理に関する研究。

幅広い情報工学分野をカバーする研究室が社会人ドクターを受け入れています。詳細は各研究室のホームページ等をご覧ください。

電子情報工学専攻(知能・情報工学専修)ホームページ:<http://www.cs.tuat.ac.jp>

本パンフレットの最新版は下記からダウンロードできます。
http://www.cs.tuat.ac.jp/common/pdf/CS_TUAT_Doctor_Panf.pdf